



4年ぶりの水泳授業

副校長 高城 剛

私は小学校の水泳の授業が大好きです。私の卒業した小学校は室内プールで5月から10月まで水泳の授業がありました。普段の体育の授業より特別感があり、楽しみにしていて、プールカードと水泳セットを忘れたことはありませんでした。初めて25M泳げたときの喜びも覚えています。大学生のころ、夏休みに母校でプールの監視員のアルバイトをしたときに、人生で初めて「先生。」と呼ばれた時のはずかしさやうれしさは今でも忘れません。小学校の先生になったのも、水泳の授業をやりたかったからと言っても過言ではありません。

先日プール納めの式が校内テレビ放送で行われ、代表の児童ががんばったことや、来年挑戦したいこと、安全に気を付けたことを発表しました。この放送を見ながら大きな事故もなく無事終わったことに喜びを感じました。

新型コロナウイルスが2類から5類となり、青葉台小学校では4年ぶりの水泳の授業を行いました。久しぶりの水泳なので、子どもたちが水に慣れていないことを心配すると同時に、教員が水泳の授業をしていなかったブランクも心配でした。新採用3年目までの教員は、水泳の授業が未経験のままでした。まずはプールの安全、衛生管理に取り組みます。清掃業者が半日がかりでプール清掃を行い、ピカピカにしています。水を入れたら循環器を動かして、毎日塩素を入れて水質管理を続けます。6月には消防署の協力を得て、AEDを使った安全講習を行いました。命を守るため、声を掛け合い真剣に取り組みました。各学年では水泳授業の計画を綿密に練り、全体指導者、安全管理者、緊急対応者など役割を決めて授業準備に取り組みました。小学校は1年生から6年生まで体格差があるので高学年は水を満水にして授業を行います。中学年、低学年では学年に合った安全な水位まで水を落とす作業も行っています。1年生は教室で水着の着替え方も練習しました。プールサイドでは二人一組のバディを組み、パートナーの健康状態を確認しあうシステムで安全性を高めています。

私もいくつかの学年のサポートに入りました。どの学年の子どもたちも安全面に気を付けて自分のめあてをもって、学習に取り組んでいました。がんばる子どもたちを応援しながらも常に「沈んでいる子はいないか。危険なことをしている子はいないか。」と全力で見守りました。そこには「楽しい水泳を悲しいものにしたくない。」という強い思いがありました。もし、事故が起これば当事者でなくても、「プールは怖い場所。プールに行きたくない、入りたくない。」という気持ちをもたせてしまうかもしれません。私はこれからも、小学校のプールが楽しかった思い出の場所となるよう学校の協力体制を整えて全力で取り組んでいきたいと思えます。

今年6年生は夏休み前に、鴨志田消防出張所の協力を得て、着衣泳の授業を行い、水難事故防止の体験をしました。水泳の授業は、水に慣れ親しんで楽しむことや泳力を伸ばすことだけでなく、水難事故防止の役割も担ってきています。